

人生を長く楽しむために
健康を第一に考えて
自分のペースで農業に取り組んでいます。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

就農した理由は、農家の4人姉弟の長男だったからです。幼い頃からなんとなく、いつかは農家になるんだろうなと思っていたので、高校も岩見沢農業高校に進学し、農業についての知識を身に付けて卒業と同時に農業に従事しました。将来は農家になると考えていたものの、幼い頃から頻繁に農作業の手伝いをしてきたわけではなかったため、当初はわからないことばかりで父に言われたことを必死にこなしていました。慣れないトラクターを運転したときは、停止するときにどのペダルを踏めばいいかわからなくなり、ほ場から飛び出しそうになったこともありました。

右も左もわからないで始まった農家人生でしたが、農業と向き合って3年が過ぎた頃には、自分なりにこうしたらどうだろうと考え始め、父とよく意見交換をするようになりました。時には意見が合わずぶつかり合うこともありましたが、安定した経営に向けて家族で協力しながら農業を営んでいます。



2 青年部活動について

青年部に加入したのは18歳の時です。当時の支部長と同じ自治会に所属していたので、自治会の集まりで会った時に誘ってもらいました。加入してからは、部員親睦会などの地域の垣根を越えた仲間づくりのほか、農業技術・経営力向上に向けた研修会などさまざまな事業に参加したことで、盟友との交友関係が広がり、横のつながりを作ることができました。

また、今年からは本部役員を務め、運営側として活動を行っています。部長を中心に役員同士で積極的に意見を出し合い、充実した事業運営に向けて日々奮闘しています。

3 仕事をすすめるうえで 気をつけていること

身体を壊さないために無理をしないことです。常に100%で農業と向き合っているとどこかで身体を壊し、最悪の場合は仕事ができなくなり、収入が無くなってしまう。そうならないためにも頑張るポイントを見つけてそこにしっかり集中できるようにし、自分のペースを大事にして余裕をもって農業を進めています。



父の勇二さんと母の正子さんと約32^{ヘクタール}の農地に水稲や小麦・大豆、白菜を栽培。農家の長男として育ち高校を卒業後、すぐに農業に従事。現在は青年部の本部役員も務め、充実した農業生活を送っています。

人物 memo

岩見沢市北村豊正
宮嶋 遼 さん(33歳)